

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

「就業力を育てる3ステップシステム」

プロジェクト

<http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる3ステップシステム

時間という有限な資源の使い方

教授 藤村博之（ふじむら ひろゆき） プロジェクトリーダー



略歴

84年名古屋大学大学院卒

京都大学博士（経済学）。

84～89年京都大学経済研究所
助手、90～97年滋賀大学経済
学部助教授・教授。

97年～03年法政大学経営学部
教授、04年～IM研究科教授。

e-mail:

fhcdc@hosei.ac.jp

研究室は新一口坂校舎 4F

予算制約と時間制約

私たちは、予算制約と時間制約の中で、日々、いろいろなことを決めています。一部の大金持ちを除けば、使えるお金には限りがあります。欲しいものをすべて一気に買うことはできませんから、あるものをあきらめたり、優先順位を決めて購入したりします。

時間にも制約があります。一度に別々のことをするのは、限られた事象を除いて不可能です。ラジオを聞きながら掃除をすとか、電車で移動しながら本を読むことはできますが、大学で講義を聴くことと海外旅行に行くことは両立しません。ネットで情報検索しながら本を読むことも難しいですね。

平等に与えられた資源

時間は、万人に平等に与えられた資源です。それをどう使うかは、各人に任されています。何か予定されていたことが急に中止になって、時間ができることがあります。その時間を使って、本を読むのか、ネットで何かを調べるのか、あるいは溜まっている書類を整理するのか、自分で決められます。

時間は、一度使ってしまうと元に戻せないという特徴を持っています。昨日にさかのぼって別のことをするわけにはいきません。この点がお金とは大きく異なります。お金は、一度失っても、頑張れば稼げば取り戻すことができるからです。

時間は、ふんだんにある資源のように見えます。特に、学生にとっては、時間は有り余るほどあるという感覚でしょう。私もそう思っていました。しかし、50歳代の半ばになり、第一線で元気に飛び回れるのはあと何年だろうかと考えると、時間制約の重みを強く感じます。

多様な時間の使い方

時間の使い方について、学生たちは多様な選択肢を持っています。私が大学生だった頃は、便利な情報機器がありませんでしたから、本を読む、映画館で映画を観る、友人と話す、何となくボーッとしている、寝るといったことが大学生のちょっとした時間の使い方でした。現在は、これらに、フェイスブック、ツイッター、ネット動画など、ネット関連の時間の使い方が加わっています。

ネットの世界には、多種多様な情報があって、それを見ているとあっという間に時間が経っていきます。1時間ネットサーフィンすると、大量の情報に接することができます。でも、そこから得られるものはさほど多くありません。後になって思い出そうとしても何も浮かんでこないというのが実状ではないでしょうか。

読書という時間の使い方

もし、1時間本を読んだとしたら、自分の中に残るものが必ずあります。読書はイメージを描くトレーニングです。私たちは、文字を読みながら具体的な情景を頭の中に描こうとします。これがコミュニケーション能力の向上に役立つのです。

ちょっとした時間ができたとき、ネットの世界に入るのではなく本の世界に入ることが、大学生らしい有効な時間の使い方だと思います。有限な資源である時間の使い方について、学生としっかり議論してみたいと思います。



略歴 法政大学大学院経営学研究科キャリアデザイン学専攻(修士)卒業後、法政大学大学院政策創造研究科博士後期課程に進学。
2011年3月、同博士課程中退。

「就業応用力養成 I」が新たに開講！

特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)

「就業応用力養成 I」では、学生たちが調査したことを企業に企画提案していきます。連休前、出版やメディア関係の企画に従事している方を招き、学内で企画会議を行ないました。現場で活躍されている方の評価は非常に厳しく、学生たちの企画は次々とダメだしされてしまいました。理由は、提案を聞く企業の、あるいは最終消費者の視点に立った吟味が不十分とのことでした。ただ、そんな学生を私が見ていて面白いと感じたことは、例え厳しい指摘であっても、自分のために一生懸命向き合ってくれる大人に対して、とても感謝していたことです。ゲストの方が、帰り際、私に「学生と向き合うことが、こんなに刺激的だと思わなかった」と呟かれていました。拙い企画でも、学生たちの伝えようとする熱意が、プロの社会人さえも一生懸命にさせたのだと思います。次は、企画の中身で勝負です！



略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。
70~06年伊藤忠商事(勤務、06~11年帝京大学と法政大学職員。
11年~法政大学教員

DVD学習の報告

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

就業力養成プロジェクトで制作したDVDを使用しての授業「働く現場を知る」(旅行代理店)を実施しました。女性新入社員のちょっとしたミスが周りを巻き込んで大変なことに…という内容です。リアクションペーパーの反応は、あまりの責任の重さに「不安」と「しっかりせねば」が半々という結果でした。なかには、「仕事は人の気持ちや行動が絡み合って成り立っているとの印象を持った」とか「大学生活でチームとして何かを成し遂げる経験をする事が大事だと思った」などの頼もしいコメントも見られました。将来を漠然と不安がらずに前向きにチャレンジする、そういう姿勢を育むべくサポートする必要性を改めて実感する機会となりました。「社会人1年生が気を付けるべき点」という質問に対する回答を法政大学就業力HPのブログに掲載しました。こちらも是非ご一読ください。又、このDVD内容はHPでダイジェスト版の閲覧が可能です。ご希望の学校へDVDを無償提供致しますのでご希望をお寄せください。



略歴: 日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

新入生の出会いをプロデュース

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

今年度の「キャリアデザイン入門」は学部制限が無くなり、全学部生が受講対象となりました(その代わり対象学年は1年生のみ)。履修者数は昨年度とほぼ同数ですが、教室の緊張感は高くなりました。大学という新しい社会に馴染ませるために、講義の早期にグループ・ディスカッションを行っています。入学時に与えられた学生番号が縁で固まっている彼らを引き離し、ランダムに初対面のメンバーで組ませ、時間制約の厳しい課題を与えます。これによって、恥ずかしい等と言っていた新入生達も我を忘れて議論を始めます。結果、リアクション・ペーパーには「今日は新しい友達ができた！」という嬉しそうなコメントが一杯に。新入生の大学定着の第一歩は、やはり新しい友の出会いです。授業でそれをプロデュースするのも変な時代ですが、対人スキル向上の一石二鳥なので良しとしています。

◆ 今年も高校生向けキャリアガイダンスを行います

去年に引き続き、高校生のみなさんに大学での“学び”を模擬体験してもらおう連続講座を実施します。
日時: 2012年6月17日・8月5日 / 19日 / 20日(オープンキャンパス開催日) 13:20~14:50
講師: 児美川 孝一郎(キャリアデザイン学部教授)、白井 章詞、鈴木 美伸、有田 五郎(特任講師)
詳細・お申込み方法は当プロジェクトのHP (<http://3step.hosei.ac.jp/>)をご覧ください。

◆ ビデオ教材第2弾もホームページに掲載しました

働く場面を実感させるオリジナル教材ビデオの第2弾「営業機械メーカー編」が完成いたしました。ダイジェスト版を当プロジェクトホームページでご覧になれます。このビデオを大学の講義でお使いになりたい方のために本編DVDをお送りする準備をしております。ご希望の方は、氏名、所属、送付先をメール(3step@ml.hosei.ac.jp)にてお知らせください。

◆ 編集後記: 本号から担当となりました。4月からこのプロジェクトに関わりはじめて、大学生時代に必死に講義のノートを取っていたことが、実は社会人になってからかなり役に立っていたということに気づかされました。当時の先生は板書やレジュメとはまったく無縁で、ただひたすら話すだけでしたから、大学の授業は不親切だと思っていましたが、今思えば愛のムチだったのかも? < 事務局: 平山 >

「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクト (事務局: 学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる**3ステップシステム**